

だいせんの未来を拓く『10の重点政策』

おいまつ 博行ひろゆき 市政だより



① コロナ対策

いのちと健康を守り
経済産業を回復させる

**コロナ禍からの
力強い復興**

② 農業

守り 育み
未来につなげる

**持続可能な
「強いだいせん農業」
の実現**

③ 経済産業

雇用を生み
本市発展の原動力となる

**地元商工業の振興と
企業誘致の実現**

⑩ デジタル化・行革

新たな時代を展望した
デジタル改革の推進
と持続可能な
行財政運営の強化



④ 子育て・教育

喜びと成長が実感できる

**出産・子育て・
教育環境の
さらなる充実**



⑨ 移住・若者活躍

新たな息吹を
地域にもたらす

**移住・定住の促進と
若者が挑戦できる
環境づくり**



⑤ 医療・福祉

「人生100年時代」を
安心して健幸に暮らせる

**保健・医療・
福祉の充実**

⑧ 地方創生

ふるさとに誇りを持ち
未来を創る

**人口減少の抑制と
地方創生への
チャレンジ**

⑦ 防災・インフラ

災害や雪に強く
暮らしやすい

**安全・安心な
まちづくり**

⑥ 地域活性化

市民が活躍し
地域が輝く

**すべての地域の
元気づくり**

市民の幸せ と 大仙市全体の発展のため 誠心誠意 全力で走り続けます！ 住み良さを実感し 夢と希望が持てるまちづくりに邁進

新春を迎え、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナに世界が震撼し、その見えざる敵と戦い続けた一年でありました。新たな年が我々人類にとって新型コロナを克服する歴史的な年になることを固く信じ、皆様とともにこの難局を乗り越えてまいりたいと思っています。

さて、私が市長として市政運営を担わせていただいでから、早いもので3年9ヶ月が経ちました。大仙市をさらに発展させるという重責を全うすべく、誠心誠意、全力で駆け抜けた3年9ヶ月であったと思っています。

この間、すべての地域をすみずみまで元気にしたい、そして、皆様が住み良さを実感し、将来に希望が持てるまちにしたいという強い思いのもと、「地域全体の元気づくり」や「地域の商工業の振興と企業誘致の強化」「攻めのだいせん農業の確立」「子育てや教育の充実」「地方創生への挑戦」など、11の公約を中心に、大仙の未来を拓く様々な取組にチャレンジしてまいりました。

こうした取組は実を結びつつあり、本市の将来都市像に一步一步近づいていることを感じています。しかしながら、未来を展望したとき、人口減少対策や地方創生をはじめ、今後も取組が必要な課題が山積しており、加えて、コロナ禍で深刻な影響を受けた経済・産業の復興など新たな課題も生じています。

多くの課題に立ち向かわなければならない今このとき、私が果たすべきは、市政を停滞させることなく着実に前に進め、大仙市のさらなる発展・飛躍に向け、引き続き、全身全霊を傾けることであると考えています。

『市政は市民の皆様のため』のものであり、すべからく皆様の「安心」「健康」「幸せ」につながるものでなければなりません。皆様が住み慣れた地域で安全・安心に暮らせる、そして、一人ひとりが希望を持ち、自分らしく活躍できる地域を創り上げ、次世代に確実に引き継いでいくため、これからも誠心誠意、全力で頑張っていきたいと思います。

老松博行



4月 「第16回国際花火シンポジウム」開催 1
世界38の国と地域から花火関係者を迎え、日本の花火の素晴らしさと「花火のまち大仙市」を世界に向けて発信。

5月 公文書館「大仙市アーカイブズ」が誕生 2
東北で初の市町村立の公文書館として誕生。公文書や古文書などの歴史的価値の高いものを評価選別し、保存と活用を図っていく。

7月 「第1回全国500歳野球大会」開催 3
全国11都県から18チーム、県内から14チームの32チームにより開催。本市を代表するイベントとして全国にPRしていく。



記録的大雨による災害が発生 4 5
7月8月の2度にわたる豪雨により雄物川の無堤部から溢水したほか、河川の氾濫等により甚大な被害が発生。9月には菅官房長官(当時)と面会し、早期の復旧を要望。9月下旬に総事業費218億円の「雄物川河川激甚災害対策特別緊急事業」を国が決定。

9月 「(株)大仙バイオマスエナジー」を誘致
林業活性化と再生可能エネルギー事業の理想的なモデルとなる木質バイオマス発電所を誘致。

旧池田家住宅洋館を国が重要文化財に指定 6
重要文化財の建造物は、秋田県内では27件目。市内では古四王神社本殿について2件目で、109年ぶりの国指定。

これまでの老松市政のあゆみ

7月 「秋田新幹線防災対策トンネル整備促進期成同盟会」の設立 7
沿線並びに近隣自治体など31団体とともに、安全性の向上、地域経済活動の充実、地方創生の実現に向け設立。8月と11月には、国土交通省・財務省・JR東日本へ要望を実施。



8月 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」オープン 8 9
4Kマルチシアターや貴重な花火資料の展示ブース、巨匠・藤城清治氏の影絵作品「大曲の花火」のレプリカなどを展示。全国の貴重な花火資料のアーカイブ機能も有する。

9月 「地域商店街元気づくり事業」をスタート
地域の商店街の課題や将来のあり方について地域住民と一緒に取り組む、地域商店街の活性化を図り、地域に賑わいと活力の創出を目指す。



10月 韓国唐津市「友好交流に関する協定」締結10周年記念式典を開催 10
「刈和野の大綱引き」が縁で始まった韓国唐津市との交流は、平成19年に「友好交流に関する協定」を締結して以来、多岐に渡る分野で親交を深めている。

11月 宮崎市との有縁交流の拡大 11
戊辰戦争から150年の節目にあたり、地域間交流から全市レベルに拡大するとともに、交流内容の一層の充実を図ることで両市が合意。

3月 「花火産業構想第II期」策定
第I期で得られた成果を活かし、「大曲の花火」をより一層発展させながら、海外へと視野を広げた本市の魅力発信と誘客等を図るため第II期構想を策定。



10月 岩手県宮古市と友好交流協定を締結 12
東日本大震災の支援活動等により絆を深めてきた岩手県宮古市と友好交流都市協定を締結。

公設民営の「南外さいかい市」オープン 13
買い物空白区域であった南外外小友地区に公設民営型による小さな拠点「南外さいかい市」をオープン。



(株)東洋マーシャルアーツ・ディストリビューションを誘致 14
柔道着製造で世界を舞台に活躍する東洋MADの立地を受入れ。

3月 大曲武道館リニューアルオープン 15
外観は蔵を基調とし、剣道場と柔道場を1面ずつ展開できる小規模大会にも対応可能な武道館が完成。

ミズノ(株)と包括協定締結 16
500歳野球への支援をいただいているミズノ(株)と、スポーツによる市民の健康増進や地域活性化の推進を図るため包括協定を締結。

「大仙市農業と食に関する活性化基本構想」策定
本市の強みである農作物、地酒、発酵食品などの地域資源を活用し市全体が活気づく産業構想を策定。

4月 「子育てにやさしいまち」の実現 17
子育て世代への支援制度を大幅に拡充。結婚、出産、子育てまで切れ目のないサポート体制を構築し、子育てに寄り添ったまちづくりを推進。

5月 国道13号大曲・秋田間整備促進期成同盟会を設立
新たに国道13号大曲・秋田間の片側2車線化や線形不良解消を図るため設立。10月には国土交通省・財務省へ要望を実施。



9月 「大仙市健幸まちづくりプロジェクト」スタート 18
市とタニタグループによる協定に基づき、国内初となる全市民を対象とした大規模なヘルスケア事業を実施。「歩く」ことを基本に、市民が健康で幸せに暮らせる「健幸なまち」の実現を図る。



10月 大綱交流館・大綱の里伝承館オープン 19 20
ステージ付きの大綱ホールや「刈和野の大綱引き」の歴史と文化を紹介するブースや実物大の大綱も展示。

大仙市誕生15周年記念表彰式を挙行 21
市勢発展に尽力された初代大仙市長の栗林次美氏をはじめ、本市に多大な貢献をされた14個人・4団体を表彰、7個人・10団体に感謝状を贈呈。

